

芳賀の史跡めぐり

おみねじんじやとだいだいかぐら 大峯神社と太々神楽

嶺町の大峯神社はかつて諏訪神社と呼ばれていました。しかし、明治39年の神社合祀政策によると思われるが、明治40年4月には諏訪神社と請地の八幡宮、天沼の大山祇（おおやまずみ）神社、公田の若宮八幡宮が合祀され、現在の大峯神社に改称されました。この地にあった諏訪神社の歴史は定かではありませんが、石造りの鳥居には明和9年4月に奉納されたと記されており、少なくとも1772年ごろには祀られていたようです。現在の大峯神社の本殿は昭和8年に改築されましたが、元々あった諏訪神社を包み込むように建てられています。

この大峯神社の本殿内にある諏訪神社は美しい木彫で装飾された小さなお社で、江戸時代の木札や銅鏡が奉納されています。大峯神社は嶺町の鎮守様として現在でも大切に祀られており、1月の元始祭、5月の八十八夜祭、7月の夏の祭典、10月の秋の祭典、12月の大祓いの祭事が行われております。また、元旦には暗い中、初詣の人で賑わいます。



大峯神社と神楽殿

大峯神社本殿の前には神楽殿があります。この神楽殿は入母屋造りの美しい建物で、平成9年に地元大工の須田誠氏によって改築されました。神楽殿では地域の安泰と、養蚕や五穀豊穰を願って太々神楽が奉納されてきました。大峯神社の太々神楽の歴史は古く、明治16年に西多摩郡の御嶽

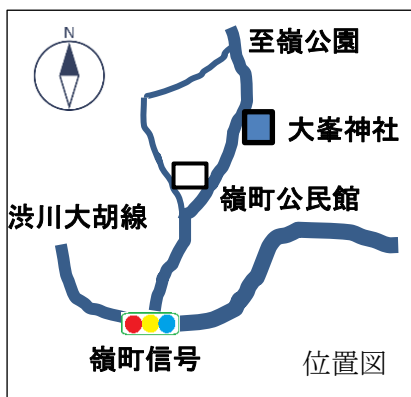
神社から正式に許可されたとの記録があります。実際には江戸時代から奉納されていたようです。特に明治36年には伊勢神宮で神楽を奉納したとの記録が残っています。この時、伊勢神宮の大舞台で太々神楽を奉納した方々の興奮が想像できます。



ひよつとこの舞

12月の主な行事予定

- 12月7日(月)グループ連協ボランティア清掃(芳賀公民館)
- 12月28日(月)芳賀公民館仕事納め



27年3月に嶺小学校が廃校になり、平日の児童の参加が難しくなったことから、平成30年からは太々神楽を児童が参加できる4月の第二日曜日に開催することになりました。

新型コロナウイルスなどで再び困難な時代になりましたが、伝統ある大峯神社の太々神楽が存続することを願いたいと思います。

生涯学習奨励員
井上 金治